

走る“医療者サバイバー”として
金沢大学名誉教授 山本 悦秀

新年明けましておめでとうございます。2015年7月12日に金沢で開催された第4回大会で、基調講演の機会をいただき、有難うございました。



私は現在71歳、金沢大学病院歯科口腔外科教授在任中の2005年8月の60歳時に進行大腸癌を発症。準・緊急で切除手術を受け、その後の2回の再手術を併せ計3回の開腹手術により、約9年経過した現在、再発はありません。

昨年、元・主治医にお会いし、「下行結腸から上部直腸への血行性転移は極めて稀で、無再発生存は奇跡的」と改めて述べられました。「気力と笑い」で再発不安と闘ってきたのが、もしかして良かったのかもしれない。

定年翌年で最終手術後約5年の2012年11月、2回目の手術時に「仮説」との説明を受けていたストーマ（人工肛門）の永久受容を決断、それと同時に癌闘病本を出版したことで講演の機会が急増しました。一方、41歳時から参加している市民マラソンはフルマラソン21回を含め、10km以上で749回完走を継続中です。

今後も、市民マラソン、講演および出版を通して、癌や再発不安と闘っておられる方々に元気をお届けできればと願って活動したいと思います。

がん哲学カフェと出会う
池袋帰宅中カフェ 角田 万木

がん哲学カフェとの出会いは抗がん剤治療が終わり、病院から離れるのが不安な時でした。東久留米がん哲学カフェ5周年記念のポスターを病院で見付け、何も知らずに参加しました。治療後、主治医から「楽しく過ごして」と言われ、5年生存率が低いので難しいと思いましたが、カフェで過ごしている内にいつの間にか楽しい日々となっています。

東久留米は、行くとスタッフの方たちが声を掛けてくれたり、樋野先生の奥様の手作りのお菓子のあつちあつちなカフェです。体力が戻った頃に帰宅中カフェのお手伝いを始め、今ではお茶の水と東村山のスタッフもしています。カフェとの出会いにより、いろいろな体験もでき、人生が変わりました。

昨年9月に再発が分かった時は、もう私に出来る事は無くなったと悲しくなりましたが、周りの方が以前と同じように必要としてくれるのは嬉しく励みとなっています。病気になってたくさん泣いてきましたが、たくさんのお会いに心が救われました。『人生いばらの道、されど宴会』の日々となりましたが、カフェを通して出会いはまだまだ続き、私にとって大切に欠かせないものとなり、楽しく過ごせる事に感謝しています。

～軽井沢「あうんの家」カフェの紹介記事～
2017年1月13日 信濃毎日新聞

「がんとむきあう会（代表・西村元一先生）」の
新規の活動も紹介されました。

2017年(平成29年)1月13日 金曜日 信濃毎日新聞

医師が軽井沢の自宅開放「ヨガヤ」かたりば企画

医療現場の端でがん患者の生活は上がり、がんを乗り越え生き延びる時代になった。入り口数は短く、外来・通院の負担が中心になる一方、患者の生活が苦しくなってきた。変わる。仕事人間関係の影響、食生活、治療の進捗や再発の不安が弱まる。また、北佐久郡軽井沢の女医は、患者家族が地域で語り合える場を主催し、訪客者人たちの思いを聞いた。(尾谷)

「あうんの家」は家庭的な雰囲気、ハンデい椅子に、面会室、病室、病室(全)と増設。昨年12月12日、北佐久郡軽井沢市。

がんと生きる 患者や家族 つながる場に
仕事への影響・食生活や再発の不安語り合う

「安息の場」各地に

西村元一医師(左から2人目)が中心となり、本格オープンしたがん患者や家族の集いの場。キッチンを備え開放的な雰囲気＝金沢市

池袋がん哲学外来・帰宅中カフェ

2017年1月23日(月)
18:00～20:00(定額1730円)

定額 25名

18:00 開会
18:05 樋野先生の挨拶
18:30 カフェ
19:30 全体協議
20:00 閉会

会場：スヴェンソン池袋サロン
東京池袋駅前交差点14-4 東武ビル7F
TEL.03-5979-6356
FAX.03-5979-6322

東村山メディカルカフェ

日時：2月5日(日)
13:30～15:30

会場：東村山市
市民ステーション
「サンパルネ」会議室

◆ 問い合わせは
E-mail: kzoya@aa.bb-eas.t.ne.jp (大弥佳寿子)

樋野先生の最新著作

がんに効く心の処方箋 一問一答 病気がとぎの心構

1日1時間だけ悩んだら日々の暮らしを続けよう!

健康人新書

- 自分がコントロールできないことには無頓着に。
- 人間はどんなときでも、何かしら与えられているもの。
- 自分にとっての病の優先順位を下げよう。
- 世の中に本当に大切なものは少ない。
- 人生は人と比較しても意味はない。
- イライラしたときは、30秒間沈黙してみよう。
- 人として「何をやるか」より、「どうあるか」が大事。

胃がんで闘病中の医師 金沢に開設 新たな支援に!

がん哲学外来研修センター (佐久市前山 321-3)
mail: kenkokobo@hb.tp1.jp
(編集発行責任者: 星野 昭江)